季　刊　　学　海

2020.12　冬号　岐阜県立岐阜高等学校・校誌編集委員会

目次

ジョイントセミナーat 東大(8/12) ……1
登校日(8/21) ……2
文化祭代替行事(9/1・10/15)……3
卒業生と語る会Ⅱ(9/8) ……4
情報モラル講話(9/11)……6
前期終業式(9/29)……7
遠足(10/2・9・15) ……8
球技大会(10/2・12・15) ……10
PS セミナー(10/23) ……11
芸術鑑賞会(10/28)……12
命の尊さ講話(11/5) ……12
主権者教育(11/19)……15
グローバルリーダー養成事業……16

◆■8 月 12 日（水）

■Web によるジョイントセミナーat 東大

〔日程〕
10:00　国土交通省とのオンラインセッション
11:30　昼休み
13:00　東大教授による研究紹介・オンラインキャンパスツアー
14:30　東大生と語る会
16:30　全体会
〔参加者〕
一・二年次生希望者　54 名

今年で第 13 回となる「ジョイントセミナーat 東大」ですが、例年は 2 日間の日程で、東京で実施されますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、1 日の日程で本校においてオンライン形式で実施しました。

午前中は国土交通省鉄道局次長の寺田吉道氏(本校卒業生)による講演を拝聴しました。特に高校生に伝えたいこととして

①問題意識を持つこと。
②プランを持ってアクションをすること。
③工夫する心、トライする気持ちを忘れずに。

という 3 点を挙げてお話され、生徒たちは、「苦しい時でも顔を上げて、前向きに」という言葉に刺激を受け、学ぶことの意義について深く考えることができました。

午後は、東京大学工学系研究科教授の神原淳先生（本校卒業生）による講義を拝聴しました。専門的な話を伺いながら、大学だからこそできる研究の質の高さを知ることができました。

また、大学院生によるオンラインキャンパスツアーもあり、東京大学のキャンパスの広さや建物などの具体的なイメージをつかむことができました。その後いくつかのグループにわかれ、本校 OB・OG による東大生と語る会を実施しました。２時間にわたって先輩たちと語る時間を持つことで勉強の仕方や東大生としての考え方、あり方を知ることができました。

今回はオンラインの形式であったため、実

際に目の前で体感することはできなかったものの、画面を通じて語りかけてくださる先輩方の熱意に生徒達は刺激を受けたようでした。

□生徒の感想より

・寺田さんのお話で特に驚いたのが、今までの経歴で部署が何十回も変わっており、たくさんの経験をされていてアクティブだということです。工夫する心やチャレンジ精神の大切さが良く理解できました。また、官僚という大変な仕事の中でのモチベーションの保ち方などがとても勉強になりました。自分には問題意識がまだまだ足りていないため、もっと周りを見ることから始めていこうと思いました。

・本格的な研究室で最先端の研究をされていることがすごいと思った。プレゼンの話を全て理解することは難しかったけれど、プラズマが様々な分野で生かされていることを知ることができ、そういった研究が身近で行われている環境はすごく刺激的だった。自分の行きたい大学はまだ決まっていないが、将来自分がやりたいことと大学が取り組んでいる研究などとを照らし合わせながら、行きたい大学を決めようと思った。

◆■8 月 21 日（金）

■登校日

学校の再開にあたって

生徒指導部長　杉山　晴美

暑い日が続いていますが、皆さん元気に過ごしていますか。

さて、学校が再開されますので、皆さんに改めて 3 つお願いをします。

1　登下校時の事故に注意してください

毎週月曜日に、西野町の交差点で自治会の方が交通指導をしてくださっています。非常に暑い中で 1 時間も屋外に立っていただくのは大変なことで、この時期は中止していただいてもかまいませんとお話をしたのですが、岐阜高校の生徒さんのためなら喜んで頑張ってやらせていただきます、と仰ってくださいました。また、本校の生徒指導部の先生も、皆さんが事故を起こさないように暑い中でも毎日交通指導をしています。その思いに深く感謝し、それに報いるためには、皆さんが交通ルールを守り、事故に遭わないようにすることです。

2　インターネット利用について注意してください

SNS 上での誹謗中傷の書き込みが社会問題になっています。皆さんは、真実であれ虚偽であれ、他人の誹謗中傷や、個人的な情報を、インターネットに絶対に書き込まないようにしてください。もしそのような事態が起きたら、被害に遭った人を守るため、学校としては厳しく対処します。困っている人は、話しやすい先生に相談してください。自分からは相談しにくい人もいると思いますので、他の人が誹謗中傷されていたり、個人情報が書き込まれたりしているのを発見したら、先生に相談してください。

3　心の健康について留意してください

勉強や人間関係のことなどで、心が晴れない人はいませんか。大人になるにつれて人は自立していかなければなりませんが、自立とは、依存先を増やすことです。依存先とは、困った時に相談できる場や人のことです。困った時は、友達や担任の先生に話してください。

迷った時こそ難しい道を選ぶ

進路指導部長　立川　喜教

全校生徒の皆さん、おはようございます。

こうやって全校生徒の皆さんに話すのは、今年度は初めてです。いつもなら体育館で皆さんの顔を見ながら話すのですが、この状況では放送やオンラインで話をすることが最善の方法です。

さて、7 月末に再び臨時休校となり、予定が大きく変わり、夏休みも 2 週間になるなど、予定していた計画を変更しなければならない

こともあったと思いますが、ここまでの生活を振り返ってみていかがでしょうか。例年行われている各大学のオープンキャンパスもWeb での開催となりましたが、積極的に参加することができたでしょうか。また、学習面では、課題に取り組むだけでなく、自分の探究したいことに挑戦する時間はありましたか。読書する時間はとれましたか。

一年次生の皆さんは、岐阜高校での学習スタイルに慣れましたか。二年次生の皆さんは、自分の志望大学や将来のキャリアについて考える時間はとれましたか。三年次生の皆さんは、高い目標を掲げて、その目標までの学習プランを立てることができましたか。

私が年次集会などでよく紹介するのが、サッカー日本代表のキャプテンだった長谷部誠選手の著書「心を整える」です。その中で書かれたことを皆さんに紹介したいと思います。

「迷った時こそ難しい道を選ぶ」

人生の岐路に立たされたとき、どんなに自信があっても迷いは生まれるものだと思う。もし失敗したらという不安。周りからの反対。挫折することへの恐れ。どうすれば成功するかという確固たるノウハウなんてないし、人それぞれの道の選び方があると思う。では、岐路に立ったときに、僕は何を大切にしているのか。ひとつだけ意識していることがある。それは「あえて難しいと思った方を選択する」ということだ。ちょっと背伸びをしたら、向こう側が見えてしまうような壁では物足りない。背伸びをしても、ジャンプしても、先が見えないような壁の方が、乗り越えたときに新たな世界が広がるし、新たな自分が発見できる。焦りもあるし葛藤もあるが、そういう苦しみがあるからこそ挑戦は楽しいと思う。だから僕は常に「難しい道」を選び続けられる人間でありたい。

私自身もこれまで、様々な岐路に立って選択を迫られる場面もあり、思い悩むこともありました。高校時代はバスケットボール部に所属し、二年生の新人戦１回戦で負けて、周りの同級生が受験勉強のために部活動を引退する中、レギュラーではなかった自分一人が三年のインターハイ予選まで続けるか悩み、顧問の先生や親に相談しました。普通なら引退するのでしょうが、私はその当時、あのまま終わることに納得がいかず､最後は自分で、続ける決断をしました。部活動と受験勉強を両立する大変さはありましたが、その決断に後悔はありません。教師になった今も、何事にも挑戦する気持ちを持ち続けることを大切にしています。

今、新型コロナウイルス感染症拡大が収まらない中、私たちは心も体も今までとは違う状態に置かれているかもしれません。もちろん、心と体の健康が第一です。その上で、皆さんが将来のことを考え、様々な岐路に立ち思い悩む時、この長谷部選手の言葉が、皆さんを後押ししてくれると信じています。この先にどんなことが起きても、皆さんそれぞれが心を整え、前向きな姿勢で様々なことに挑戦できることを願っています。

◆■9 月 1 日（火）・10 月 15 日（木）

■文化祭代替行事

〔日程〕
9 月　1 日(火)6 限　一年次生が実施
10 月 15 日(木)6 限　二年次生が実施

今年度の文化祭は、新型コロナウイルスの影響により、一年次生と二年次生が年次ごとで行う代替行事に変更となりました。

一年次生は、各クラス５分程度の動画を作成し、学年全体で鑑賞するという形で行いました。内容は様々で、ピタゴラスイッチや、バカっこいい動画など各クラスで話し合って決めました。

二年次生は、「ユーチューバーになろう！」というテーマで、各クラスを 6～7 班に分け、

それぞれの班がおもしろ動画を作成し、クラス内で鑑賞するという形で行いました。

岐高祭代替行事を振り返って

・新型コロナウイルスの影響により、動画作成においての制限がある中、我々は最高の団結力を見せ、ピタゴラスイッチを創り上げた。柔軟な発想力と、巧みな工作技術、そして圧倒的な編集力のコラボレーションにより完成したこの作品は、出会って３ヵ月余りの私たちの仲を深め、活気溢れる学級へと成長させてくれた。

・今年は新型コロナウイルス感染症の影響で岐高祭が無くなり、みんなの気分も落ち込んでいた中、代替行事として二年次生では「ユーチューバーになろう！」が行われました。どのグループの映像作品も完成度が高く、それぞれの個性が出ている素晴らしいものだと感じました。動画作成の準備をするにあたって、仲間と意見を出し合い、笑顔で活動する姿が多く見られました。そのような、企画に対して全力で楽しもうとする姿からも、岐高生の前向きな気持ちを感じた気がします。クラス内での鑑賞では、それぞれの映像作品に込められた思いと多くの時間を費やして努力していた仲間の姿が目に浮かびました。行事が少なくなった中で、最高の思い出になったと思います。そして、ここまで一生懸命になれる岐高生だからこそ、来年度は岐高祭が開催できることを願い、楽しみにしています。

◆■9 月 8 日（火）

■二年次 FPT「卒業生と語る会Ⅱ」

大学三年生以上の本校卒業生から、学部・学科の内容や研究の様子、卒業後の進路について、より専門的なお話を聞く機会を設けました。専門的な勉強や研究の状況を聞くことで具体的な学問のイメージをつかみ、目標を考える機会になりました。

□概要

火曜の第 6 限(15:05～16:05)に FPT として実施。主な内容は、

①学部や学科、専攻を選んだ経緯
②どんなことを学び、研究しているか
③大学または大学院卒業後の進路
④二年次生へのアドバイス

など。

□参加した卒業生の在学校

○医学系
岐阜大学・筑波大学・名古屋市立大学・名古屋大学

○薬学系
名古屋市立大学・京都大学大学院

○生物学・農学系
東北大学大学院・名古屋大学大学院

○理学系
名古屋大学大学院・東京大学大学院

○工学系
東京大学大学院・名古屋大学大学院・神戸大学大学院・名古屋大学大学院・京都大学大学院・東京大学大学院

○文学系
名古屋大学

○教育学系
京都大学

○外国語学・国際関係学系
東京外国語大学

○経済学・経営学・商学系
大阪大学・慶應義塾大学

○法学系
東京大学・神戸大学

□生徒の感想より

○医学系

・身近な先輩方からより現実的なお話を聞けて、本当に貴重な経験となった。医師としての生活は多くの体力を必要とし、なぜ医師になりたいのかを明らかにし、強い気持ちを持っていなければ大変だということを知り、本当に自分は医師になりたいのか、自分に問いかけたいと思った。

〇薬学系

・薬学部に進学することは、薬剤師になるための過程に過ぎないと思っていましたが、大学では多くの専門的な授業や研修実験などを行っていることを聞いて、強い意志を持って大学を選び、勉強に励むことが大切だと思いました。

〇生物・農学系

・農学部といっても、理学部の生物分野、工学部のバイオ研究などと重なる部分があり、幅広いと思った。

・大学によってカリキュラムやコースの分かれ方、所有する農場が異なるため、よく下調べをして、自分が興味のある分野を研究できるところを目標にすると楽しそうだと思った。

〇理学系

・修士と博士、院、研究者などを混同していましたが、それぞれどのステージの人を指していて、それが全体の何割ぐらいを占めるのかを知ることができ、特に学者というのは本当に狭き門だと実感しました。

・大学で、論理力を土台にして自分の興味ある分野を研究できるように、高校のうちに「原理→答え」という論理的思考力や、言葉で説明する力を身につけておきたいと思いました。

〇工学系

・研究は失敗から発見があり、その経験・知識を生かして目標を達成したり、プロジェクトを進めていったりすることができるので、課外活動にも積極的に取り組んでいくことが大切だと分かった。

・就職活動にあたって、大学の知名度だけではなく、地元の企業には大学の立地も大切だということを知ることができました。

〇文学系

・フィールドワークを大切にしていて、かなりアクティブで楽しそうで、今まで以上に学んでみたい気持ちが強くなりました。

・大学入学後にさらに深く学問などについて理解した上で選択できる部分もあると聞き、今、精一杯考えた上で入学した大学なら、何か興味が持てるものは見つけられそうだと思いました。

〇教育学系

・自分が思っていたよりも大学の授業には多種多様な形態があって、自分が学びたいことを学ぶことができると分かりました。

・卒業後の進路で、教員以外にも、国家公務員になったり一般企業に就職したり大学院に進学したりする人が 4 割程いるということに驚きました。

〇外国語系

・単に外国語を学ぶだけではなく、それを基礎として地域調査といった様々な研究を行うことが分かって興味がわきました。

・他の大学と違って外国語に特化している分、自分のやる気次第でとことん追究できる環境が整っているのが良いなと思いました。

〇経済学･経営学系

・商業学のゼミで企業と連携して様々なことを研究していると知り、面白そうだと思った。今回の話を聞いて、やはり自分は商学について学びたいと改めて思った。

・がんばって勉強することは自分の将来についての選択肢を広げ、自分のやりたいことや夢への実現につながるのだと思った。また、いろいろなことへのアンテナを立てて自分の興味や知識を広げていきたいと思った。

〇法学部

・法学部はただ法律をひたすら覚えるのではなく、自然科学とつなげたり、社会情勢から考えたりと、自分の身近なところで役立つことが多くあるので、やはり法学部に惹かれると思いました。

◆■9 月 11 日（金）

■情報モラル講話

正しく怖がるインターネット
～事例に学ぶ情報モラル～
小木曽　健　氏
（グリー株式会社　社会貢献チーム）

実際にあったネット炎上の事例を挙げながら、インターネットや SNS などを利用する上でどのようなことに気を付けるべきなのかを分かりやすく説明していただいた。

□講話の概要

インターネットで情報を発信することは、渋谷のスクランブル交差点で白い紙にメッセージを書いて掲げて立っているようなものである。

2011 年 3 月に起きた東日本大震災では、母親が携帯メールでイギリスにいる息子に送った SOS のメッセージが、息子のツイッターによって拡散されて、救援ヘリコプターの出動につながり、446 名を救出することができた。

このような良い事例もあるが、一方で、ツイッターの炎上事件も後を絶たない。コンビニエンスストアのアルバイト店員が、自分がアイスクリームの冷凍ケースに入っている画像を投稿し、それが短時間で拡散されて炎上し、その店が営業停止になってしまった事例がある。このようにインターネット上で騒ぎを起こすとどうなるか。インターネットの世界では 100 万人超の人々がつながっている。100 万人という数字は、ある人物について、その人を知っている人がその 100 万人の中に必ずいるということを意味する。「シックス・ディグリーズ・オブ・セパレーション」という言葉があるように、人は世界中の誰とでも、自分とその誰かとの間に、5 人の人間を介するだけでつながることができてしまう。だから、インターネットで炎上を起こすと短時間で身元が特定されてしまうのである。

SNS などで情報発信するときに、個人情報を載せていないから大丈夫というのは間違いである。住所、氏名といった個人情報ではない、些細な情報であっても、居場所や行動パターンなどの記述から消去法を使って個人が特定できてしまう。大切なことは情報を発信する前に想像力を働かせることだ。

また、友人限定で公開しているから大丈夫と思うのも間違いである。限定公開であっても、スクリーンショットを使うことで、その画面は友人から拡散してしまう。

インターネット上で情報が拡散されるために必要な人数は、たったの 2 人だけである。2 人うちの 1 人は投稿者であり、もう 1 人の閲覧する人物に悪意があれば、簡単に炎上してしまうのである。

中学生がいじめをしている動画を撮影し投稿した事例では、あっという間に外部に拡散し炎上した。いじめた生徒たちは短時間で身元が特定され、その後の進学や就職の際に合格や内定を取り消された。炎上してもいつか世間は忘れてくれる。だが、就職や結婚などの人生における重要な場面で、それに関わる身近な人は、その人がどういう人物なのか必ず注目する。その人をインターネットで検索すると、過去の炎上事件が掘り起こされる。だから、炎上事件を起こすと自分の一生に関わってくる。人生の重要な場面のたびに、炎上事件が持ち出されるのだ。

しかし、インターネットといじめは別の問題であって、切り離して考えるべきである。インターネット自体はただの道具であって、使い方の問題である。情報機器の発達によって視覚や聴覚をフォローでき、障がいのある人の生活が便利になったりもする。だから必要以上に怖がるのではなく、正しく怖がることが大切である。

情報社会の進展によって日常とインターネットとの境目が無くなることが危惧されているが、それは違っている。今までも日常とインターネットはずっとつながっていたし、これからも同様である。日常とインターネット

を切り離して考えるのではなく、同じものだと考えれば、インターネットで失敗することはない。「インターネットはすべて自宅玄関の外側」なのである。インターネットに情報を発信することは、自宅の玄関ドアにその情報を貼り出すことだと考えれば良い。自宅の玄関ドアに貼り出しても構わない内容のものならば、その情報を発信しても良いのである。

□生徒の感想より

・自分のこれまでの認識以上にインターネットは危険であり、掲載する情報に十分注意をしなければならないということを実感した。実際の SNS 上での炎上においては、ものの数十分の間に個人情報が特定されていたり、取り消した投稿もスクリーンショットなどを介して世界中に拡散されてしまったりすることを認識し、インターネットに投稿する内容の確認をしっかりと行っていかなければならないと思った。自分はこれまで SNS などへの投稿をした経験はないが、これからそれらに触れる機会も徐々に増えてくると思うので、自分の周囲で起こっている炎上を決して他人事と思わず、日常生活において不適切と思われる行為をインターネットにおいてもすることのないように気をつけていきたい。また、自分の玄関に貼ることのできない情報はインターネットにも載せられないという認識をしっかりと身につけ、情報を扱う際の判断材料としたい。

・個人情報ではない些細な情報をネットに載せるだけでも住所などの個人情報が短時間で特定されるということを聞いて、改めて普段のネットの使い方を見直す必要があると思いました。日常とネットは同じだということを頭に置いて、玄関の外側に貼れるような言葉だけがネットに載せることができることをこれからずっと忘れないようにしたいです。また、最初に、東日本大震災の時にツイッターで大勢の方を助けることができたということを聞いて、SNS を正しく使えば無限の可能性があると思ったので、これからは今まで以上に SNS を注意して使いつつ、人を助け良い気持ちにできるようなことを目的にネットを使用していきたいと思いました。そして、ネットの炎上は自分の人生で身近な人に注目される重要な時にまで影響を及ぼしたり、自分の家族にまでもつらい思いをさせることがあるので、絶対にしないように本当に気をつけていきたいと思います。

◆■9 月 29 日（火）

■前期終業式

探究心

校長　折戸　敏仁

ようやく朝・晩は涼しい風が吹くようになってきました。

今日、前期の期末考査が終了しました。持てる力はすべて出し切りましたか？

これで今年度のほぼ半分が終わったことになります。また、一つの区切りとなりました。

前回、8 月の終業の際に、日の光を浴びると、私たちの脳内では「セロトニン」という神経伝達物質が分泌され、幸せな気分になる、と話しました。今日、明日も晴れの日が続くようです。大いに日の光を浴び、幸せな一日を過ごしてください。

さて、SDGs とは何か知っていますね。SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS、「持続可能な開発目標」と訳されています。朝日新聞の 2 月のウェブ調査によれば、この「言葉を聞いたことがあるか」という質問に「ある」と答えた人は全体で約 33%ですが、20 代では約 43%、15 から 19 歳では約 37%と、若い世代での関心が高いことがうかがえる、とありました。

また、先日の新聞には、大学入試問題に取り上げられることが増えてきた SDGs に関する記事がありました。大学入試センターが昨

年発表した大学入学共通テストの地理Aの参考問題例、また、学習院大学あるいは東京大学教養学部の推薦入試でも取り上げられているそうです。東京大学での出題を確認してみると「SDGsでは、2030年までに達成をめざす17分野が示されている。これらの目標からあなたの関心のあるものを一つとり上げ、どのような問題が現在起きているのか説明しなさい」というものがありました。

本校においては様々な形でグローバルリーダー養成事業を行っていますが、皆さんには、国際的な広い視野を持ち、自ら問題を発見し、解決していく探究心を身に付けてほしいと思っていますし、また、皆さんの素晴らしさはその探究心を基に学び深めているところにあると思っています。

10月からは後期が始まります。一年次、二年次、三年次の皆さんそれぞれの高校生活における現在の自分の位置を俯瞰的にとらえ、自分の進路目標達成へ向けて、心新たにスタートを切ってくれることを期待しています。

◆■10月2日（金）・9日（金）・15日（木）

■遠足

〔日程・行先〕

一年次生　10月15日（木）

8:30　岐阜駅北口観光バス駐車場

↓

9:30　博物館明治村

↓

13:40　かかみがはら航空宇宙博物館

↓

16:00　岐阜駅北口観光バス駐車場

二年次生　10月9日（金）

8:15(A団)

8:45(B団)　岐阜駅北口観光バス駐車場

9:15(C団)

↓

9:45(A団)

10:15(B団)　郡上八幡城下町

10:45(C団)

↓

15:30(A団)

16:00(B団)　岐阜駅北口観光バス駐車場

16:30(C団)

三年次生　10月2日（金）

8:30　岐阜駅北口観光バス駐車場

↓

9:30　博物館明治村

↓

14:10　かかみがはら航空宇宙博物館

↓

16:00　岐阜駅北口観光バス駐車場

例年5月に実施されている各年次の遠足ですが、令和2年度は新型コロナウイルスによる臨時休校などの影響で10月に実施されることとなり、行き先も近隣の地域・施設へと変更されました。

各年次　遠足の思い出

今年度、私たち一年次生は新型コロナウイルス感染症の影響で、学校生活の始まりが遅れ、楽しみにしていた林間学舎にも行けませんでした。そんな中、初めての校外研修として遠足に行くことができました。

行き先は、明治村とかかみがはら航空宇宙博物館でした。明治村では、社会や国語で習った人物の家が多くあり、どんな暮らしをしていたのか想像を膨らませながら見学することができました。もちろん、家だけでなく学校や教会、さらには監獄まであり、ここでしか体験できないことを多く味わうことができました。昔の街を友達と話しながら歩いたり、ご飯を食べたりして、それぞれが楽しい時間を過ごすことができたと思います。航空宇宙博物館でも、ずらっと勢揃いした飛行機の迫力に圧倒されたり、宇宙を知るための様々な努力に感動したりして、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今回の遠足は、高校に入っても悉く行事が潰れてしまった一年次生にとって貴重なもの

で、普段の学校では見られない仲間の姿を発見して、さらに仲を深めるきっかけとなったと思います。一年次生として過ごす期間も残り半年を切りましたが、遠足をきっかけに、新型コロナウイルスにも負けずに充実した学校生活を送っていきたいです。

（一年次生）

10月9日、郡上へ遠足に行きました。小雨が降る中でしたが、コロナ禍でなかなか出かけづらかったこともあって、郡上を満喫しようと、皆、気分上々で現地に向かいました。

食べ歩きをしたり、温泉に行ったり、鍾乳洞に行ったりするなど様々なグループがありました。僕たちは8人グループで郡上を巡りました。特に印象的だったのは、高級な鰻を食べたことです。お店の方に、食べ盛りの高校生だからと、とてもよくしていただき、ご飯おかわり自由という特権をいただきました。いつかこの8人で働いたお金でどんぶりを注文し、恩返しすることを約束しました。この日一緒に行動したことで新しく仲良くなった友達とは今でもよく話をしています。

年内の修学旅行は見送りとなってしまいましたが、この機会でさらに地元岐阜の良さを知ることができたとともに、大切な仲間ができて貴重な体験となりました。

（二年次生）

今年は修学旅行が中止になってしまいました。楽しみにしていたのでとても残念ではありますが、今回の遠足では、修学旅行に勝るとも劣らない経験を得られたのではないかと思います。

私が今回の遠足で一番印象に残っていることは、郡上八幡城に行ったことです。最後に回ったので時間が少なく、険しい山道を息を切らしながら登ったのを覚えています。最初はこんなに登らないといけないのか、などと嘆いていた私たちですが、登った後の郡上八幡城の壮観さに心を奪われ、行って良かったと思いました。城には至るところに「千代の知恵、賢妻の心得」と書かれた名言が貼ってあったのを、友人の一人が写真に収めていました。中でも彼女が一番気に入っていたのは、「さりげない言葉で夫を誘導しよう」という名言のようです。座右の銘にでもするつもりでしょうか。彼女が将来そんな賢妻になれるよう祈っています。下りはみんなで歌を歌って楽しく下りました。些細な友人との会話も、学校以外の場所でするのはとても新鮮で面白く感じられました。

短い時間でしたが、市内を各々好きなように観光するという自由な旅程の中で、時間いっぱい楽しもうと自分で計画を立てコースを決め、雨の中駆け回ったことはとても良い思い出になったと思います。ほんの些細な事、例えばすごくおっとりしている子が極度の辛党だったのを知ったり、みんなの買ったお土産を見せ合ったり、普段の高校生活ではできないことを、将来、高校時代の思い出として振り返る日が来ると思うと、この遠足で得た経験はとても大きいものだと思います。

（二年次生）

新型コロナウイルスの影響で、クラスで過ごす時間がまだ少なく、また、多くの生徒が前々から楽しみにしていた最後の文化祭や体育祭などの行事も中止が相次いでいた中、この遠足は、クラスの親睦を深め、どこか心の準備が無いまま始まってしまったような受験生としての勉強生活の息抜きをする良い機会となりました。

明治村では、ちょうど日本史で学んでいた明治時代の歴史を感じる建物や展示を見てさらに学びを深めることができ、航空宇宙博物館では、普段は間近で見ることのできない自衛隊の飛行機やその仕組みを見たり体験したりすることができました。そして何より、まだ少なかった新しいクラスの仲間との学校生活の思い出をつくることができました。三年次生にとっては最後の行事、このような機会を設けてくださった先生方に感謝し、これ

からはそれぞれの進路の実現に向かって全力を尽くしていきます。

（三年次生）

◆■10 月 2 日（金）・12 日（月）・15 日（木）

■球技大会

〔日程〕
10 月　2 日(金)午後　二年次生が実施
10 月 12 日(月)午後　一年次生が実施
10 月 15 日(木)午後　三年次生が実施

今年度、新型コロナウイルスの影響により、従来の形での球技大会の実施が難しくなりました。どのような方法であれば実施できるのか検討し、時間や規模を縮小して行う運びとなりました。年次ごとに日を分け、開催時間も午後のみという形で行いました。どのクラスも練習に励み、当日を迎えることができました。

球技大会を振り返って

コロナ禍の中で工夫して実施された今年の球技大会は、特別な大会となりました。他競技への応援が制限された中で、互いを信じたプレーができたと思います。僕たちソフトボールは初戦から粘り強い勝負で優勝候補に勝利することができ、仲間との絆が深まりました。（2 年 3 組）

楽しみにしていた文化祭が無くなってしまい、気持ちの整理がつかない中でしたが、代わりに球技大会が開催されることになり、気合いが入りました。さらに種目の中に僕が小学校時代にやっていたソフトボールがあったので、より一層気分が高まりました。

球技大会に照準を合わせ、昼休憩の時間などを利用して練習を続けた結果、本番では個々の力を合わせて優勝することができました。また、自分としてもピッチャーとして最高のパフォーマンスができたので良かったです。（3 年 3 組）

種　　目	1 位	2 位	3 位
三年次生男子ソフトボール	3-3	3-6	3-7
三年次生男子バレーボール	3-3B	3-5A	3-1A
三年次生女子バレーボール	3-6A	3-5A	3-2A
三年次生女子卓球	3-7	3-2　3-3 3-6　3-8	
二年次生男子ソフトボール	2-6	2-5	2-9
二年次生男子バレーボール	2-9	2-2B	2-1A
二年次生女子バレーボール	2-7B	2-9A	2-9B
二年次生女子卓球	2-2	2-7	2-8
一年次生男子ソフトボール	1-1	1-4	1-9
一年次生男子バレーボール	1-4A	1-1A	1-6B
一年次生女子バレーボール	1-7B	1-2B	1-3B
一年次生女子卓球	1-6	1-8	1-2

新型コロナウイルスにより多くの活動に制限がかかる中、コロナ対策のもと球技大会を開催する事ができました。

年次ごとの開催により昨年までと比べると小規模ではありましたが、今年初となる大きな行事に向け、優勝を目指し練習に取り組む姿がみられました。正々堂々と戦い応援し合うことで一体感のある球技大会となりました。また、準備、審判をはじめ運営に欠かせない役割を自分達で担い生徒主体で進行できました。

まだまだ社会に不安が残る今、私達三年次生にとって高校最後の年に仲間と共に励み悔しさや喜びを共感できた事はかけがえのない思い出です。開催にあたり多大なご協力、ご配慮いただいた全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。　　（3年8組）

◆■10月23日（金）

■PSセミナー

PSセミナーは、「人生の先輩として語りたいこと」「親から子へ伝えたいこと」など、日頃思っておられることをお話しいただき、生徒の人生観・職業観の育成を図ることを目的としています。今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインにて実施しました。（以下、「・」は生徒の感想です。）

空と塀の中とセラピー犬

中島　美千世　氏

（精神科医）

中島氏は、昭和63年に岐阜高校を卒業されました。日本航空で国際線Cabin Attendantとして2年間、刑務所や少年院で勤務する仕事に転職して7年勤務の後、31歳のとき医学部に入学され2019年から岐阜市長良にてKoharu terrace Clinicを開業し、現在は精神科医としてご活躍なさっています。

高校時代の思い出、様々な仕事を経験した上で思うこと、精神科医の仕事、女性が働く上での課題、受験のコツなどを、クリニック内の動画も交えてお話しいただきました。

・自分も将来、医師になろうと考えているため、とてもためになるお話でした。私の学力はまだまだで、医師に向いていないのではと思うこともあり、少し迷ってしまうことはあるけれど、先生のお話から自分が本当にしたいことを見つけてそれに向かって努力を地道に続ければ良いのだと思うことができました。これからも自分の将来をしっかり考えて後悔しない人生を送れるようにしたいです。

法律で広がる世界

左髙　健一　氏

（弁護士）

左髙氏は、昭和61年に岐阜高校を卒業されました。東京大学在学中に司法試験に合格し、卒業後は司法修習生を経て、1992年に弁護士になられました。現在は弁護士歴28年目で、アンダーソン・毛利・友常法律事務所に所属してご活躍なさっています。

弁護士という立場から分析する今の日本や世界の情勢を踏まえ、高校生として身につけるべき知識や能力、進路選択のポイント、大切にすべき考え方など、対話形式で幅広いお話をしていただきました。

・弁護士になって良かったと仰っていた左髙先生のように、「これをしていてよかった」と思える仕事に就きたいと思いました。28年弁護士をやり続けてもなお、世界は広がり続けているのだと分かり、16年しか生きていない私の世界はまだまだ狭く小さいものだと気づきました。多くのことを経験しながら、自分の世界を広げていきたいです。

気候危機の時代を生きる

杉山　範子　氏

（気象予報士・名古屋大学特任准教授）

杉山氏は、大学卒業後に日本気象協会に勤務し、1995～2002年まで気象予報士としてテレビ愛知の気象キャスターを担当されました。その後、大学院で環境学博士を修了され、名古屋大学大学院環境学研究科助教やベルリン自由大学環境政策研究所客員研究員として研究を続け、現在は名古屋大学大学院環境学研究科特任准教授としてご活躍なさっています。

近年急速に進む世界の気候の変化と、そこに潜む大きな危険性を、気象予報士の視点からご自身の体験や調査結果を踏まえてお話しいただきました。また質疑応答では、ご自身の高校時代やその後の経験を踏まえ、人生を通して大切にすべき考え方について教えていただきました。

・気候変動を含め私たちの未来には数多くの大きな問題があると思います。「まだ子どもだから」とか「私たちは悪くない」などといった気持ちを持つのではなく、自分たちが未来を生きていくのだから、それらの問題を「自分のこと」として考えることは当然だと強く思えました。そして、将来、自分も地域社会や自然環境に良い影響を与えられる人間になれるよう、知識をもっと身に付けたいと思います。

◆■10 月 28 日（水）

■芸術鑑賞会

芸術鑑賞会は、薫り高い芸術に直接触れることで幅広い教養を身に付け、豊かな情操や感性を育成し将来の自己実現の一助とすることを目的としています。三年間で古典芸能・演劇・音楽鑑賞のローテーションで実施しています。

今年度の「芸術鑑賞会」はザ・ソウルマティックスの皆さんによるゴスペルコーラスを鑑賞しました。新型コロナウイルスの影響により、一・二年次生の部と、三年次生の部の、2 部制で行いました。

芸術鑑賞会を終えて

文化委員長

初めてゴスペルコーラスを聴きました。聴いた瞬間に圧倒され、その歌声の美しさに魅了されました。とても力強くて、かっこいいと感じました。

また、歌っている姿がとても楽しそうで、私もとても楽しくて、時間が過ぎるのがあっという間でした。

特に印象に残っているのは、岐阜高校の校歌のアレンジでした。聴いた時、私たちがいつも歌っている校歌の雰囲気とは全く違って、とてもきれいで聴き入ってしまいました。

「with コロナ」の時代で、今回のような公演を開くことは簡単なことではなかったと思います。しかし、こんな時代だからこそできる「声を出さない」代わりに「体全体で自分の気持ちを表現する」という新しい形の公演を経験できて、とても新鮮でした。

また、先が見えないことで不安があったり、後ろ向きになったりしていた気持ちも、ゴスペルコーラスの美しさと、明るい曲調、前向きなメッセージ、なにより歌っているザ・ソウルマティックスの方々の楽しそうな姿を見て、前向きに取り組んでいこうと思えました。

◆■11 月 5 日（木）

■命の尊さ講話

〔講師〕
ブルボンヌ　氏
（女装パフォーマー　平成 2 年本校卒業生）
講話「自分らしく、多様な社会へ
～LGBT、性の自認と指向～」
〔日程〕
14:20～15:40　講話
16:15～17:00　交流会
〔参加者〕
講話　　全校生徒・PTA 役員など
交流会　全校希望者　45 名

この講話は、グローバルリーダー養成事業の職業・学問体験プログラム（心理医学系）とのコラボレーション企画として実施された。

今年度は、本校卒業生でもあるブルボンヌ氏にご来校いただいたが、新型コロナウイルス感染予防のため、各教室へのオンライン配信による講話を行い、その後大会議室にてブルボンヌ氏と希望者による交流会を行った。

□目的

生徒の自己肯定感を高めると同時に、様々な違いを持つ自他の個性を認め合い、自他の命を尊重する態度を醸成する。

□講話の概要

1　自己紹介

小学生の時は、アニメやパソコンの好きな元祖オタク少年で、アニメでは「キューティハニー」のような闘う女子主人公が好きだっ

た。そのころから「オトコオンナ」と言われてからかわれることがあった。中学2年で同性に初恋をしたが、当時はそれを人には言えない特殊な気持ちだと思っていた。高校になって、2～3年の時に剣道部の主将だった男子を好きになり、卒業間際に思い切って告白したが、後で「驚いたけどうれしかった」と言ってもらえた。早稲田大学に進学が決まって、親には一般的なルームシェアということにして、11歳年上の男性と同棲しはじめた。その人とは現在も同居している。東京にはゲイの人も大勢いて、ゲイのネットワークを開設したり、ゲイ雑誌の編集者をしたりしていたので、大学は7年在籍した後、除籍になってしまった。その後、出版社を退職し、オネエタレントとして、TV に出演したりしていたが、バラエティ番組に出演するよりも、まじめな話で仕事をしたいと思うようになり、今では全国の自治体や大学・企業などでも、男女共同参画や性をテーマに講演を行ったり、イベント司会業、飲食店のプロデュースなどを行っている。

2　性とは何か

「オネエ」とまとめて呼ばれる人たちも実際には様々である。では男性・女性という性の区別は何によって決めているのか。

・性染色体

いわゆる XY や XX で表される生物学的なものだが、目に見えず表からは分からない。

・肉体

男女による体格差は、個人差も大きく、性分化疾患の人もいたり、ホルモン投与によって変化する場合もある。

・装い

服装・アクセサリー・化粧などは、時代や地域・民族によっても異なっており、男が化粧をする民族もある。

・振る舞い

言葉遣いやしぐさといった日常の動作だけでなく、趣味や考え方にも男らしさや女らしさといった分け方がなされるが、これは社会的に振り分けられたものでいわゆるジェンダー（社会的性）と言われるものである。

・戸籍

戸籍自体は世界的に見ても少なく、日本・中国・台湾だけで、個人というよりも親族関係を登録するものである。日本でも条件はあるが 2003 年から性同一性障害特例法によって性別の変更が可能になった。

・指向

これは恋愛感情や性的欲求の対象がどういう相手に向かうかというもので、「嗜好」とは違い無意識に形成される根源的なものである。

3　性的指向と性自認

SOGI は、Sexual Orientation（性的指向）と Gender Identity（性自認）の英語の頭文字をとったものである。Gender Identity は自分の性をどのように認識しているかということで、Sexual Orientation はどういう性別を好きになるかということである。一方、よく使われている LGBT という言葉は、実は LGB と T の間に違いがあり、LGB はレズビアン、ゲイ、バイセクシュアルという性的指向を表しており、T のトランスジェンダーは性自認について表している。また、X ジェンダーやこれ以外の性的少数者もいる。他者に性的魅力を感じない人やパンセクシュアル(全性愛)という、好きになる相手が男か女かに限定するのではなく、その人だから好きという場合もある。性のあり方は極と極ではなく曖昧なもので、どちらかに決めなければいけないものではない。

テレビなどではオネエタレントが多いが、女性から男性（トランス男性）よりも、男性から女性（トランス女性）の方が面白がられるからであって、実際にはトランス男性も多くいる。そのこと自体が男尊女卑の発想かもしれない。また現実には様々なケースがあり、

結婚している夫婦の夫の方が自身の性に疑問を感じて、夫婦のまま女性同士のカップルのように暮らしていたり、長年普通に男性として生きてきた人が還暦を過ぎてから女性としての自分に目覚めたりしている。性のかたちが時間とともに変化することもあるし、人生のどのタイミングで自分の性に気づくのかも人それぞれである。

現在では、調査で 8.9%の人が LGBT だと言われており、10%という調査結果もある。これは左利きの人や血液型が AB 型の人の割合と同じようなものだが、制度上の問題や、社会的なハラスメントやロールモデルの不在などの不安からカミングアウトできず、違和感の中で生きている性的少数者も多い。

国連の掲げる持続可能な開発目標"SDGs"に「ジェンダー平等」も入る中、世界経済フォーラム「ジェンダー・ギャップ指数 2020」では日本は 153 カ国のうち 121 位で、先進国とはいえない状況にあり、経済的にも政治的にも女性の地位は低い。また、同性婚についても先進国では認められるようになっているが、日本では法整備も進んでいない。しかし、自治体レベルでは同性パートナーシップ制度などの取り組みを始めており、現在では人口の 30%をカバーする 60 以上の自治体が実施している。LGBT の人々も 26 年前から「東京レインボープライド」というパレードを行っていて、ブース出展や協賛企業も増えて、今では有名企業も LGBT をマーケットの対象として意識し始めている。

4　自己肯定感について

自分は 15 年前、34 歳の時に初めて母に自分の性について告白したが、母は自分のことを理解してくれた。子供のころから、自分は他の人と違って変わっているのではないかと考え、自己肯定感は低かったが、今ではこういう自分に満足し、自己肯定感も高くなった。若者を対象にした調査で、「自分自身に満足している」人の割合は、アメリカや他国に比べて日本はかなり低く、自分を肯定できない若者が多い。自分の尊敬するアメリカの女装パフォーマーが「自分を愛せることで他人を愛せる」と言っているが、ぜひ自分を好きになってほしい。また今の時代は、自分のオリジナリティを大切にすることは創造性や社会貢献する意欲の向上にもつながっていく。結局、人間の性は生、つまり生き方そのものであり、人それぞれであって、寛容の心で他者の性＝生が自分とは違うことを認めることで自身もまた認められ、皆が居場所と生きがいを感じられる社会へとつながっていくのである。

□交流会

交流会では生徒の質問に対して、ブルボンヌ氏が答えるという形で行われた。生徒からは、性的少数者の人に対してどういう表現を使えば相手を傷つけないのか、性的少数者に対する法整備の必要性、また自己肯定感を高めるにはどうしたら良いのかなどの質問が出された。その質問をした生徒に対して、フレンドリーで気さくに、しかもしっかりと生徒に向き合って、分かりやすく丁寧に答えておられる姿が印象的だった。交流会の後は、皆でブルボンヌ氏を囲んで記念撮影が行われた。

□生徒の感想より

・LGBT の方に対して、「どのようなことを言われると悲しいのか。」と聞くことは、一見 LGBT の方のことを思っての行動のように考えられるけれど、実際それは、普通の人とは違うという考えが私たちにあるという証拠であることが分かりました。LGBT の方を受け入れる世の中になってほしいと、今回の講演でより強く思いました。しかし、それは“LGBT”と“そうではない人”と区別をして、同じ社会の中で生活をするのではなく、そういう区別をなくして、皆一人一人の人間として関わっていく社会が望ましいなと思います。私も「自分らしさ」というのを大事にしてこれから生活していきたいです。

・「濁流の中で、どのボート・オールで進めば、自分らしさへと向かっていけるのか」というブルボンヌさんの言葉が胸に響きました。自分の表現の仕方は何であっても良い、ただ、その本質、その自分しか分からない「心」の部分が本当に大事だというお話を聞き、今まで表面の印象やそのものの型だけで勝手に判断し、「らしさ」を大切にしてこられなかった自らが恥ずかしくなりました。「等身大の自分」というワードも印象的でした。今までの自分は「自分」が満たされておらず、鎧だけの人間だったのかなとも考えるようになりました。自分の命をこよなく愛し、自己肯定感を高めるためにも、多くの情報があふれるこの社会の中で、自分のベクトルを常に「自分らしさ」へ向かわせられるような生き方をしていきたいと感じました。また、多様な人々と進んでつながりを持ち、多様性があり、個々が大切にされる社会を目指したいです。

◆■11 月 19 日（木）

■主権者教育

〔講師〕
高橋　勝也　氏
（総務省主権者教育アドバイザー・名古屋経済大学法学部准教授）
講演「立ち上がれ！　岐阜高生」
〔日程〕
15:05～15:55　講演
16:10～16:50　座談会
〔参加者〕
講演　　全校生徒
座談会　全校希望者　35 名

コロナ禍という未曾有の社会状況の中で、より良い社会を目指し政治に参画する姿勢を涵養することは今後ますます重要になってくる。今年度は、総務省主権者教育アドバイザー・名古屋経済大学法学部准教授である高橋勝也氏にご講演をしていただき、その後希望生徒対象に座談会を行った。

□講演の概要

講演においては、将来、社会のリーダーとして活躍することを期待されている生徒たちに向けて、熱意のあるメッセージを届けていただいた。

単に選挙に行くことを推奨するのではなく、様々な利害が対立し一つの答えが定まらない現代社会において、より多くの人々が納得できる解を探究することの重要性を強調され、それを「納得解を目指す合意形成の試み」と表現された。また具体例として「赤ちゃんポストの設置を推進すべきか？」「ハイジャック機撃墜法によって少数を犠牲にして多数を助けようとすることは適当か？」など、生徒にとって、自分のこととして考えられる問いを投げかけられ、各クラスにおいて生徒たちによる活発な交流・議論が行われた。その他、コロナ禍において政治の役割の重要性が浮き彫りにされたことと、若者の意見が政治に反映されるよう世代別選挙などの制度面を考えていくことも意義があるのではないかと提唱された。最後に将来のリーダーとして、自分のためだけでなく、他者・社会のためにその能力を生かしてほしいと伝えられた。

□座談会

座談会においては、高橋氏と生徒たちの間で活発な意見交換が行われた。中にはご講演の内容や高橋氏の主張に批判的な意見もあったが、氏は真摯に応答され、フラットな対話や議論の大切さをご自身の姿で示しておられた。

□まとめ

主権者教育は、在学中に 18 歳となり、選挙権を得ることになる高校生にとって、社会を形成する一員となる自覚を持つきっかけとなるべき機会である。今回のご講演と座談会は、生徒主体の「高校生と政治のかけ橋をつくる会」のメンバーが関わってきた講師の方を招くことができた。今後もこの関係を維持し、

三年間を通じて、主権者としての意識を培っていく一助になればと考える。

□生徒の感想より

・自由と平等の両立は難しいが、両極端を望む人ばかりではなく、どちらも正しいからこそ、正解ではなく、多くの人が納得できる答えを求めるべきなのだと理解できました。それはリーダーであってもそうでなくても集団の一員として意見を示すことによって求めることができる。自分の一票が空しいものではなく、変化を求めるみんなの内の一票だという自信を持って選挙へ行くことが大事だということが分かりました。

・今まで、「君の一票が日本を変える！」といった決まり文句を言われ続けてきましたが、「一票はあまりに小さい」とはっきり仰っておられて、私にとっては衝撃的でした。ただ、一個人の票は小さくとも、集団の、みんなの一票は大きな力を持つと教えていただいたので、投票に対する無力感はとても小さくなりました。政治は、一つの物事にしても多くの側面があり、完璧に解決することは難しいのかもしれないけれど、「納得解」を見つけるという言葉がとてもしっくり来ました。周りの子と意見を交流しただけでも対立するのだから、国の規模で考えると、より困難だと分かりました。みんなの一票を信じて、投票に行きたいと思います。

グローバルリーダー養成事業

◆■8月8日（土）～9日（日）

■各種大会体験プログラム

第4回東海地区高等学校模擬国連大会
海外研究部

8月8日（土）～9日（日）の2日間に渡って、各自が自宅からオンラインで参加するという形で、第4回東海地区模擬国連大会が開催された。

議場は経験者を中心とした「上級者議場」と、初心者を中心とした「初心者議場」の二つが用意された。本校からは会議を運営する側として二年次生が4名参加し、それぞれに会議監督や副監督を務めるなど、大使としての経験を生かして運営としての重責を全うしてくれた。

大使には、19チーム（38名）が参加した。そのうち上級者議場は二年次生の1チームのみ。あとの18チーム（36名）はすべて初心者議場への参加であった。大半の生徒が一年次生で、なおかつ今回が初めての模擬国連という生徒も多かった。

オンラインを用いたこの会議では、模擬国連会議そのものの難しさに、オンラインを使用して会議に参加することの難しさが加わるため、通常の何倍ものエネルギーを使うことになる。その点で、2日間の会議にしたことが進行にある程度の余裕を生み、最後まで会議をやりきることを可能にしたように思う。

その反面、オンラインの参加では会議の全貌がつかみにくく、特に初心者にとっては会議を部分的に理解するだけにとどまり、十分な手応えを感じられなかったというのも事実である。

結果は、初心者議場においてフランス大使を務めた二年次生ペアが優秀賞を獲得し、2日間の会議は幕を閉じた。

◆■9月18日（金）

■職業・学問体験プログラム（政治・経済系）

〔講師〕
藤井　聡　氏
（京都大学大学院工学研究科教授）
講演「日本がこれから歩むべき道について～デフレ大不況、巨大天災の連発、そしてコロナ感染症拡大を受けて～」

〔日程〕
15：45～17：15　講演
17：15～17：45　質疑応答
〔参加者〕
全校希望者　73 名

講師の藤井氏の研究分野は、「国土計画・土木計画」「経済・財政・金融政策論」「交通計画・交通行政」「生活・交通行動分析」など多岐に渡ります。過去には内閣官房参与（第 2～4 次安部内閣）も務められ、現在も多数のテレビ、ラジオにご出演されています。こうした多くのご経験をもとに講演を行っていただきました。

なお、本企画は生徒発案によるものであり、講演依頼をはじめとして生徒主導で実施されました。

※以下の内容は、企画生徒である本校三年次生が講演内容を記録し、まとめたものとなります。

□はじめに

私が藤井先生を知ったのは、動画サイトで先生の講演を見かけてからでした。先生の多角的な視点からの分析と総合的、俯瞰的洞察の明瞭さと鋭さに驚きました。内閣官房参与を勤められ、現在の政治の内情にもかなり精通していらっしゃる先生から直接お話をお伺いすることができないかと考え、講演を依頼したところ、快諾してくださり講演会を開くに至りました。

□講演の概要

○日本がこれから歩むべき道について

1　デフレという病

藤井先生は、デフレを国家における死に至る病であると位置付けた。デフレとは簡単に言うならば経済が悪化ないし成長しない状態である。それは GDP(国民の所得の合計)のみならず、国力までもが国際社会の中で、相対的に低下することを意味する。格差の拡大や固定化、国民の貧困化をもたらすデフレは日本経済の長期に渡る低成長の要因であり、現在日本ではそれが 30 年に渡って続いているという異常な状況にある。異常というのは、普通、経済成長は所謂発展途上国の方が成長率が高いという傾向はあるにしても、先進国でも継続的に実現しうるものであるからである。デフレは、『所得の低下→支出の減少→所得の低下…』という負の循環に陥ることによって進行していく。経済力の低下は、国民の生活水準の低下などに限らず、技術力や外交力の低下に深く結び付いている。また、貧困化が進み、格差が拡大することは、文化や精神の荒廃や治安の悪化をももたらしうるものである。つまりデフレ化は、現在における日本のあらゆる問題の原因であるといっても過言ではない。よって、デフレ脱却なしに更なる日本のあらゆる側面での発展は期せず、速やかにデフレ脱却の為の財政政策が行われなければならない。具体的には消費減税と財政支出の拡大である。

2　消費税という欠陥税制

消費税とは消費にかける罰金である。当然のことながら、それにより消費は大きく冷え込む。その消費とは日本の GDP の約 6 割を占めるものである。よって、消費増税は明らかに日本の低成長と不景気の原因である。消費税を上げれば、消費は減る。そればかりか、誰かの消費は誰かの所得であるので、これは見方を変えれば所得の減少を意味する。そして、その所得の減少は更なる支出の減少をもたらし、結果、デフレ化がますます進行する。加えて、消費税は逆進性を有している。逆進性とは低所得者ほど相対的に税負担が重くなることである。これらのことから分かるように、消費税とは欠陥税制であり、それは国民を苦しめ、日本経済を破壊する以外の何物でもない。故に少なくともデフレを脱却するまでの間、消費税を凍結することが求められる。

3　緊縮財政という危険思想

上記の消費増税の他に、政府が財政支出を削減し続けてきたことも、重大な問題点であ

る。地震や水害、疫病の流行などをはじめとするあらゆる災害に対する備えは、本来であれば政府が国民の為に行うべき公共事業であるが､それらへの支出を削減してきたことが、結果的に経済の停滞をもたらすばかりか、国民の生活水準を損ね、安全を脅かしているのである。今回の感染症の拡大によってその脆弱性が露呈した医療体制を整える他、地震や水害などのあらゆる自然災害への備えを強化する国土強靭化の必要性に迫られている。

4　諸悪の根源である新自由主義思想

競争を激化させることによって、生産性が向上するという考え方は、少なくともデフレ下においては間違っている。ましてや、その過程で中小企業が敗退し淘汰されることは、市場の新陳代謝が働くことであるなどという言説は、それによって失われる雇用や供給能力を全く無視したものであり、誤った政策である。しかしながら、このような考え方に基づいた「改革」が進められてきた事が日本の停滞の原因である。

5　新型コロナウイルスについて

コロナについて、今回の感染症の脅威を過小評価し、それへの対応の必要性を軽視するものではないが、過度な「自粛」は問題である。感染症対策と経済対策を両立した上で、そのバランスを取ることが重要であり、総合的な視点が求められる。なぜなら、経済的原因によって自殺に追い込まれる人の数の方が、感染症による死者数を上回る可能性が高く、また平均余命という考え方を用いると、コロナによって亡くなる人の平均余命が 3～5 年であるのに対し、自殺者の平均余命はおよそ 40 年である。数字で人の命の価値をはかる態度は決して望ましくはないが、こういった事実があることも知っておくべきである。また、コロナをめぐって出鱈目な論説が流布していることについても「インフォデミック」が生じていると形容し、国や社会に大きな悪影響を及ぼしている。

〇まとめ

～今すべきこと～

・「デフレ脱却までの消費税の凍結」
　国民に 30 兆円給付するのと同じ効果がある。

・「所得の補償」
　国民全員に所得の一定割合を補償。同時に財政規律の解除。

・「国土強靭化への投資」
　あらゆる災害への備えの強化。国土構造の分散化。それに伴う財政支出の拡大。

これらを実行すれば、経済が回復し、国力が増強し、他国への隷属から解放され、国民の幸福と、国家の自存独立が長期的に確保される。

口質疑応答

Q1：財源について。消費減税によって歳入が減る一方で、財政支出の拡大を行うことは可能なのか？国は多額の借金を抱えているのではないのか？

A1：国家(政府)には通貨発行権がある。よってそれがない個人が借金をして債務を背負い、場合によっては破産するのと、国家が国債を発行するのとは次元が異なる話。これを混同してしまっている事が財政破綻論やそれに基づく緊縮財政の要因。国家(政府)には通貨発行権があるため、過度なインフレにならない限り、即ち少なくともデフレ下においては、財政支出の拡大が可能である。
(詳しくは現代貨幣理論(MMT)を参照)

Q2：格差を是正すべきという考え方は社会主義的(共産主義的)ではないか？

A2：資本主義や社会主義という言葉の定義が広すぎる上に、冷戦時代のように二元論的には論ずるのは不適当。重要なのは経済において国家(政府)と民間とが共存した上で、そこでそれぞれが占める比率のバランスを保つことである。政府と民間のそれぞれの活動が融合される、つま

り資本主義的側面と社会主義的側面とのバランスを成り立たせる必要がある。現在の日本は資本主義的側面が強すぎる。例えば、鉄道や電気、ガスなどの交通エネルギー関係の事業は、普通は国家事業として政府が提供するべきものであるが、民間企業が行っている。よって過度な自由化、民営化が進んだ現在の日本においては、まず政府が行う事業の割合を増やすべきである。

Q3：格差をどう解消するか。

A3：まず過剰な自由貿易をやめること。所謂大企業、とりわけ多国籍企業が、グローバル化が進むことによって、全世界の中小企業を潰していることが格差の拡大に繋がっている。よって格差の拡大に一定の歯止めを掛けるには、過度なグローバル化を抑制することである。過剰な自由貿易や規制緩和による競争の激化を警戒しなければならない。

◆■10 月 6 日（火）

■基調講演会

〔講師〕
林　信秀　氏（みずほ銀行常任顧問）
講演「百折不撓～世界に羽ばたけ！」

本年度の基調講演会には、1975 年の卒業生である林信秀氏をお迎えしました。林氏は東京大学経済学部をご卒業の後、富士銀行（当時）に入行され、合併後のみずほ銀行で頭取を務められました。現在はみずほ銀行の常任顧問でいらっしゃると同時に、様々な企業の社外取締役や顧問を務めておいでです。また、APEC の民間委員としても様々な国際会議にご出席なさっています。

今回の講演会は、新型コロナウイルス感染症予防のため、一部の生徒以外はオンラインを使用して教室で視聴しました。また、講演会終了後には、感染症予防の対策を講じながら、希望者対象の座談会も実施しました。

□講演「百折不撓～世界に羽ばたけ！」

1　はじめに（自己紹介を兼ねて）

私は 1975 年に卒業して 45 年経ちました。今日は私なりの考えや思いをお伝えしたいと思っております。

最初に 2 つの言葉をお伝えし、みずほ銀行の紹介や私の紹介をしながら、どうしてこの言葉を挙げたのかについてお話しいたします。今は 100 年に一度の大転換期と言われています。こうした中で私たちはどうしていくべきなのか、ということについてもお話ししたいと思います。

最初にお伝えしたい言葉は「Something different, Something new」です。「Something different」とは、「君は他人と何が違うのですか」「あなたの強みは何ですか」ということです。皆さん自身は何が他人と違っているか自信を持って言えますか？ また、「Something new」とは、「昨日のあなたと今日のあなたとでは何がどう変わったのですか」ということです。

2 つ目は、岐阜高校の校訓、校歌の一節にもある「百折不撓」です。これは、どんなに失敗しても前を向こう、一歩進もうという意味です。人生は良いときもあれば失敗するときもある。失敗や挫折は辛いですね。私も大学受験に失敗しました。でも、落ちたときに挫けないでもう一度挑戦することが長い人生において大きな糧となります。失敗を恐れないでほしい。皆さんの未来は自分で切り拓いていくしかないのです。皆さんのこれからの人生において、いろんな節目節目にいろいろな選択があると思います。その選択肢を他人任せにしないで自分で考えてほしいと思います。その決断が仮にうまくいかなくても、自分で決断したのであれば後悔することはありません。

みずほ銀行の紹介をしたいと思います。銀行員というと『半沢直樹』のイメージをお持ちかもしれませんが、現実の銀行員は、この

テレビドラマに出てくるほどハンサムで美女ばかりいるわけではありません。また、歌舞伎俳優のように見栄も切りません。当然、「倍返し」もありません。ドラマのストーリーに相当バイアスがかかっていますし、やや法律違反ともとれるところがあります。なぜこのドラマに日本中の人がこんなにも夢中になるのでしょうか。やはり、それは主人公の熱い思いとプライドをかけた生きざまに惹かれたからではないでしょうか。どんな職業でも、真摯に仕事に取り組んでいく、その生きざまは多くの人の共感を得られることでしょう。私たち銀行員の醍醐味といえば、お客様と一緒に会社の成長や再生のお手伝いをする、そうしたことを通して日本の経済に少しでも役に立っているという実感が持てるところにあるのだと思います。そんなに華やかな世界ではありませんが、皆さんの中から将来銀行員を目指す人がひとりでも多く出てきてくれることを願っています。

みずほフィナンシャルグループは、みずほ銀行を最大の母体として、銀行から信託銀行、証券会社、運用会社まで含めて、トータルでの総合金融会社―メガバンクを構成しています。全体で「ONE　みずほ」というキャッチフレーズでやっており、ネットワークも47都道府県のすべてに支店があります。世界では40の国、120 の拠点があります。個人のお客様は2,400万人いらっしゃいます。そして、日本の大企業、上場企業の7割から取引をいただいています。また世界の大企業の約8割と取引を結んでいます。みずほの強みというと、「シンジケート・ローン」で日本1位だったり、あるいは「プロジェクト・ファイナンス」という案件、証券アナリストランキング、運用など様々な分野で1位だったりすることです。

2　2つのキーワード

それでは、先ほど申し上げた2つの言葉―キーワードをどうして大切にするようになったのかを紹介したいと思います。私は2度の海外勤務を経験しています。最初は27歳の時で、7年間ニューヨーク勤務をしました。2度目は39歳の時で、香港で6年間働きました。その後も多くの海外業務をこなしてきました。現在は、銀行の仕事に加えて花王やJTBや東武鉄道、バロック・ジャパンというアパレルの会社などで社外役員を務めています。また、丸紅の顧問もしています。さらに2017年にはAPEC（アジア太平洋経済共同体）で民間諮問委員に指名されて国際的な会議に出席しています。

私が「Something different, Something new」、あるいは「百折不撓」を座右の銘としたターニングポイントは何かといえば、27歳で初めて勤務したニューヨーク支店です。ここでの勤務は私にとって非常に貴重な経験になりました。初めての海外赴任に2つの壁が立ちはだかります。1つ目は英語、2つ目はお客様からの要望事項です。岐阜高校は、大変一生懸命に英語の学習に取り組んでいます。私の高校時代は旺文社の「赤尾の英単」山崎貞の「英文読解」を暗記させられました。岐阜高校の英語力は、全国でもNo.1に近かったのですが、私は英語が苦手でした。英語が苦手だったせいで浪人し、大学でも英語は低空飛行でしたので、就職も商社ではなく銀行を選びました。それが27歳でいきなりニューヨーク勤務を命じられた訳ですから、最初は随分とまどいました。電話がかかってくると、相手は英語で話してくるから何を言っているか分かりません。でも、とにかく自分の思いを自分の言葉で伝えていくことで相手に伝わっていきます。

もう1つはお客様からの要求です。1回目は表敬として会ってくださいますが、海外のお客様は、しっかりとした意義、会う価値がないと判断すると2回目以降は会ってくれません。自分がお客様に対してどれぐらい付加価値のある提案をできるか。「Something

different ― あなたは他の銀行マンと何が違うのか、私にどんな付加価値を与えてくれるのか、」そうした価値を感じてもらえないと振り向いてはもらえません。20 代でそうした環境に身を置くことができたのは、非常に得がたい経験でした。個人として付加価値を高めていかなくてはいけないということを学びました。

「百折不撓」― 営業部長の時にはいろいろな日本の商社を担当していました。そこで様々な M&A[1]を提案しました。各商社へ出向いてプレゼンをするのですが、商社の人ははっきりしていて、プレゼンの価値がないと判断すると、「もう帰ってください」と言われます。しかし、そこであきらめてはいけません。「次はもっと良い提案を持って行こう」「何度ダメでもこの案件を扱うことがお客様にとって意義があるのだ」という強い意志を持つことが大切です。こうして、個人として付加価値を高めていく、そして必ずやりきっていく、こうした力を身につけることができました。

先ほど APEC の民間諮問委員の話に触れましたが、2017 年に官邸で当時の安倍首相から日本の委員 3 名の中の 1 人に指名されました。各国 3 名の民間諮問委員が集まって会議があるのですが、そこでは民間の立場から各国のリーダーに向けて政策提言を行います。政策を提言すると同時に、APEC が開かれるとそれにあわせて各国のリーダーが民間の声を聞く会議が持たれます。1 時間半ぐらいテレビや新聞で見る世界のリーダーたちと話をするのは貴重な経験であるし、彼らにとっても民間の話を聞く貴重な機会です。

2019 年からは、APEC の中にある 5 つの部会の中の「金融経済部会」の議長を務めています。21 カ国の民間委員の意見をとりまとめて政策提言を行います。これは大変な任務でした。この会議には通訳が入りませんし、日本の会議のように皆おとなしくありませんから、委員たちの意見をまとめて政策提言をしていくことは非常に大変でした。

今年は 2 月に第 1 回の会議をリアルで行いました。通常は年 5 回会議を開くので、そのたびに海外出張をしていましたが、コロナでまったくできなくなりました。そこで 2 回目以降は WEB で行っていますが、7 月には、コロナの後、アジア太平洋地区はどのように経済施策を進めていくのかについて緊急提言を行いました。11 月 20 日にも会議があるのですが、それに向けた政策提言をまとめています。今年の APEC の議長国はマレーシアですが、マレーシアの財務大臣は、私と一緒に民間委員を務めた方でした。

APEC の会合以外にも、いろいろな国際会合で講演を行ってきました。先般も「金融機関から見た地球環境への取り組み」というテーマで講演をしました。日本ではよく「KY」ということが言われますが、海外ではこれを「空気を読むな」と解釈します。「どうしてここで黙っているのか、君の意見はどうなんだ。」と、自己主張が求められます。黙っていると無視されてしまいますし、同意したものと見なされてしまいます。協調も大事ですが、自分自身の意見を持って、ちゃんと手を挙げて発言することが大切です。英語で講演をするのですが、いまだに英語で講演するときは緊張しますし、質疑応答では質問を取り間違えることもあります。しかし、大切なことは自分の言葉で語ることです。それができる人は聞いている人を引きつけるのではないかと思います。

私の岐阜高校の同窓生には、ほんとうに素晴らしい方がたくさんいらっしゃいます。同窓会・副会長をしていただいている十六銀行の村瀬頭取や、松波病院の松波理事長であったり、また三菱電機の杉山社長であったりし

[1] 企業の合併買収（「Mergers（合併）and Acquisitions（買収）」の略）のこと。広義の意味として、提携までを含める場合もある。

ます。みな同級生です。ハーバード大学医学部の河合教授、鳥村教授など、素晴らしい人たちばかりです。同窓生の旅行が毎年行われており、私も時間の都合がつく限り出席するようにしています。去年の 11 月には、高校時代に行った修学旅行と同じルートを旅行しようといって集まりました。こうして仲良く皆で旅行するというのは、非常に大事なことだと思っています。この同窓生とは LINE 使って近況を伝え合っています。皆さんも今の関係を大切にすると同時に、卒業しても高校時代の友人を大切にしてください。岐阜高校は毎年夏に「at 東大」を実施しています。その中で東京の企業や官庁の OB･OG を訪問されますが、2017 年のときに 70 名ほどの岐高生がみずほ銀行を訪ねてきてくれました。その時には、みずほ銀行に入行した岐阜高校の OBOG と座談会も持ちました。皆さんもぜひいろいろな機会をつかんで OB のところへ実際に出かけていって、自分の目や耳を使って自分の将来を決めていってほしいと思います。

3　4 つのメガトレンド

さて、現在は 100 年に一度の大転換期を迎えています。大きなメガトレンドは 4 つあります。1 つ目は「気候変動」。2 つ目は「人生 100 年時代」、皆さんの半分は 104 歳から 105 歳まで生きるのです。そして「デジタルテクノロジーの進展」、皆さんは生まれたときからデジタルデバイスに囲まれて生活しているでしょう。最後に「パンデミック」、今年はコロナによって人の生活スタイルが大きく変わってしまいました。

まず「気候変動」です。100 年間の気候変動をグラフにすると平均で 0.74 度しか上がっていないのですが、2000 年以降の気温の上昇は、この平均を上回って気温がどんどん上昇しています。2015 年に合意された「COP21 パリ協定」を聞いたことがあるかもしれません。これを各国が持ち帰って気温が上昇しないようにしているのですが、上昇は止まらない。このままでいくと 2030 年には、目標としていた 1.5 度を突破してしまうのではないかと言われています。2050 年になると、これは企業や政府の力だけではダメで、皆さん一人一人がどうしたら気温の上昇幅を縮められるか考え、そうした生活スタイルを変えるための知恵を出し合わねばなりません。気温の上昇は、私たちの生活にどのような影響をもたらすのか。1 つは海面上昇です。台風と高潮が重なることで海面上昇が起きます。そして洪水です。今年も九州で大洪水が起こりました。飛騨地方に大きな水害があったことは記憶に新しいことと思います。さらには熱中症も出てくると思います。食糧も水も不足するかもしれない。いろいろな課題が気候変動によって起きてきます。2010 年リーマンショックの時に、「グローバル・リスクは何がいちばん大きいですか」と世界の学者 1000 人に聞いたそうです。その時は、社会や経済や資産形成が大きく変わることなどいろいろなことが挙げられていました。2015 年になると、国家間の争いや環境問題になったのですが、今年はすべて環境問題です。世界の学者 1000 人が異常気象・気候変動・自然災害と答えています。気候変動が産業や社会に与える影響が非常に大きくなってきているのです。気候変動に対しては、COP21 や COP25 のように国連における枠組みを設けて取り組む他に、金融面からも気候変動を抑えるような枠組みがあります。「気候関連情報開示タスクフォース」というもので、これは世界中の企業に対して気候変動が及ぼすリスクが財務や金融にどのように影響するのか、それに対してどのような戦略があるかを明らかにするよう求めています。このタスクフォースを承認している企業は世界で 1,000 社ぐらいありますが、その中で日本の企業が 300 社近くと、最も多いのです。今や企業はお金だけ儲けていれば良いという時代ではありません。社会的課題に対しても真剣に対峙していかねばならないのです。こ

うした取り組みをしない企業は社会からも株主からも投資家からも相手にされません。

次に「人生 100 年時代」について話します。現在の日本人の平均寿命は、女性 87 歳、男性 80 歳です。しかし、ロンドン大学の教授は、2007 年に生まれた人の半数が 107 歳まで生きると言います。それを逆算すると、皆さんの中の半分の人が 105 歳まで生きることになります。100 歳まで生きることが当たり前の世の中になっています。1950 年の時点では人生は 60 年ありませんでした。平均寿命が延びることを「まだまだチャンスがいっぱいある」「新たなことに向かう機会がたくさんある」のように前向きにとらえることが大切です。人生 100 年時代になると、マルチステージとなります[2]。教育を受けていったん就職しても、学び直しや働き直しが出てきます。これからは定年などは無く、自分で自分が引退する時期を考えながら、新たなことに挑戦しく必要があります。現実的には 2050 年には日本の労働人口が 3 割減少しますし、約 4 割が 65 歳以上になります。ピーク時に 1 億 2,000 万人いた日本の人口も 2050 年には 1 億人を割る時代になってきます。その時にどう日本を支えていくかというと、年をとってもしっかり働く、生産性を補助するデバイスを使うという時代になってきます。年配の人にとっても、定年でおしまいではなく、新たなチャンスがたくさん出てくる。1 つの人生の中で新たなことに次々と挑戦することができるのです。うまくいかなくても、また次の新しいことに挑戦すれば良いわけです。

次の大きなトレンドは「デジタルテクノロジーの進展」です。センサーが進化し、デバイスが進化し、ありとあらゆるものがつながり始めています。車でナビゲーションを使うと到着予定時刻が表示されますが、センサーとデバイスの精度が上がり、数値が正確になってきています。データは PC のハードではなく、クラウドと呼ばれるデータセンターに収めます。そこでは膨大なデータを安価で蓄積することができ、それを AI に分析させます。なぜこのようなことができるかというと、「5G」や量子コンピュータがあるからです。5G になると、4G の 100 倍の超高速、10 倍の精度で正確にものを見ることができます。量子コンピュータができると、いま世界で最速のスピードを誇るスーパーコンピュータで 1 万年かかる計算を、わずか 200 秒でできるようになります。膨大なデータを集めてきてもすぐに計算ができてしまうのです。そうなると、今、皆さんがやっていることも、人がやることと AI がやることに峻別されていきます。皆さんは将来いろいろな職業に就きたいと考えているかもしれませんが、その多くが 10 年以内にコンピュータに取って代わられます。銀行の仕事も、かなりの割合で AI がこなすようになるでしょう。融資の審査やスポーツの審判なども、これからはコンピュータが行うようになるでしょう。建設機械も自動運転が可能になる。そうすると重機のオペレータはいらなくなってしまいます。こうしてかなりの職業がコンピュータに取って代わられてしまいます。皆さんは将来いろいろなものを目指しているでしょうが、将来コンピュータに取って代わられるような職業を目指しても仕方がないですよね。ではコンピュータには代替されにくい仕事とは何か。それは、何かを創造していく仕事、判断をしていく仕事、人の感性に働きかける仕事などです。こういった仕事

[2] 2016 年に発売された『LIFE SHIFT』（リンダ グラットン、アンドリュー・スコット：著、池村千秋：訳/東洋経済新報社）で著名な概念。これまでは、学生・会社勤め・老後という 3 ステージの人生を歩むことが一般的だったが、100 歳まで生きる人生が当たり前になり働く期間が長くなることを想定すると、「1 社に雇われて働く」以外の働き方も選択しながら、複数のキャリアを持ち多様なキャリアライフを構築していくことが必要になる。

を目指さないと、仕事そのものが無くなってしまいます。自分が人生をかける職種は何だろうかと考えたときに、この大きなメガトレンドの中で、コンピュータを使いこなす側に回ることです。新しい仕事や新しい価値を作り出していくことを考える人にならなければなりません。今、デジタルテクノロジーというと、世界では「ビッグ・テック[3]」と呼ばれる人々が世界を席巻しています。Google、Apple、Facebook、Amazon といった企業は、ただ便利さを提供しているだけでなく、新しい価値を生み出し、それによって私たちの生活を囲い込んでいます。彼らの機能やサービスなしでは我々が生きていけないような時代になりつつありますから、単に便利なだけではなく、便利さの裏側で彼らの作り出す社会システムの中に囲い込まれてしまっているのです。彼らは自分たちを「創造的破壊者」という言葉を用いて表現していますが、既存の業界を破壊することによって新たな価値を生み出しています。破壊されるのは、今までの銀行であったり、今までの企業であったりします。GAFA[4]は、もともとの祖業はあるものの、いまやデジタルからリアルまで新しい価値をどんどん生み出しています。グーグルは検索クラウドから始まって、いまや車の自動運転の分野にも進出してきていまし、自動運転に関するデータを最も多く持っています。彼らはあらゆるデータを押さえ、そこから人々のあらゆる生活スタイルを押さえにかかっています。中国の「アリババ」や「バイドゥ」、「テンセント」なども同じです。消費行動もデジタル化が進んでいます。皆さんは目覚めてから眠るまでの間に、どれぐらいの時間インターネットとつながっていますか。中国の若者は約 4.5 時間だそうです。皆さんも 5 時間ぐらいはスマホを触っているのではないですか。スマホはすごく便利ですが、この中に入り込んだ人は、すべての生活やビジネスに関するデータが押さえられてしまいます。一方で、この世界に入らなかった人は、このビジネスモデルからはじき出されてしまいます。そのため、どんなに優れたモノづくりを行う企業であっても、単なるサプライヤー（下請け）になってしまう。これは中国に限った話ではありません。実際に日本でも起こりつつある状況です。したがって、デジタルのネットワークを作り上げていくことが大切になります。日本では、ソフトバンクがあって、その下にヤフーがいて、さらにその下に Zozo town がいて、Pay Pay や LINE がいます。日本も中国と同じようにネットを使ったビジネスが広がりつつあります。普段便利に使っていますが、皆さんの生活から消費行動までもがこうしたネットワークの中に取り込まれているのです。Amazon は宅配だけでなく、家の中にまで入ってきています。「Amazon Echo」を持っている人はいますか。「Amazon Echo」にいろいろと問いかけていくと皆さんの行動はすべて Amazon にデータとして蓄積されていきます。AI が皆さんの消費行動を予測して、勝手に買い物をしてくれます。また、最近話題になっている「Amazon go」では、レジも何もない店舗で買い物をして、決済は後から行います。ネットからリアルへとなぜこうした買い物が増えているのか。レジの店員を削減するということもありますが、それ以上に、皆さんの購買履歴や決済履歴や行動履歴がデータとして送られるということがあります。企業としては、それらを使って皆さんの将来予測を立

[3] ビッグ・テック(Big Tech)は、テック・ジャイアンツ（Tech Giants）、または口語ではフォー・ホースメン（The Four Horsemen）、ビッグ・ファイブ（Big Five）、または S&P 5 とも呼ばれ、情報技術産業における最大かつ最も支配的な企業であり、特に Amazon、アップル、Alphabet、Facebook、マイクロソフトの 5 社が挙げられる。

[4] 米国の主要 IT 企業であるグーグル（Google）、アマゾン（Amazon）、フェイスブック（Facebook）、アップル（Apple）の 4 社の総称。

てることができて、それに従って商品を生産することができます。そうすれば余分な物を作る必要がないわけです。ニーズに合わせた物だけを作れば良いという、実に効率の良い生産システムができあがります。プライバシーの裏返しではありますが、個人の行動を予測するということが、これからの大きなビジネスモデルになってきます。自動車産業も大きく変わりつつあります。CASE という言葉を聞いたことがありますか。C は Connected(「つながる」)、A は Autonomous drive (「自動運転」)、S は Shared、E は EV です。自動車がつながり始めると、データが集まってくるし、人の動線が見えてくるし、人の通る道が見えてきます。そうすると、店を出すにしても車がたくさん通るところ、人がたくさん通るところに出店した方が良いわけです。あるいは自動運転になると事故が無くなりますから、鉄で車を作る必要が無くなります。自動車保険もいりません。そして、Shared が浸透すれば、1 人 1 台の車を持つ必要が無くなって、車が売れなくなります。また、現在は皆さんのお家がどの程度の割合で EV に乗っていらっしゃるかわかりませんが、まもなく、すべての車が EV になるという時代がやってきます。トヨタはいま「MAAS」(Mobility As A Service) と言っていますが、「自動車」「タクシー」「電車」などと分けるのではなく、トータルでその人の動線をサポートすると、人は一旦それに乗ってしまえば、後はそこで様々な供給を受けることができます。テスラに乗れば分かりますが、自動車に乗っても運転に関する機器はほとんど無く、あるのはスクリーンです。これからはスクリーンで車と対話する時代になります。そうなると、日本は GDP の 1 割が自動車産業ですが、この自動車産業が競争力を失うかもしれない、日本は作り込む匠の技によって世界の頂点に立ちましたが、EV 化されるとメカとして作り込む必要が無くなります。家電メーカーがそうであったように、モジュール化が進み単純に部品を組み合わせるだけで製品ができてしまうようになり、中国や韓国に追い抜かれました。自動車もそうなってしまう時代が来るかもしれない。トヨタ自動車は、日本で一番企業価値の高い企業です。20 兆円の株式の価値を持っており、世界で 1,000 万台の自動車を作っています。一方、アメリカの EV メーカーであるテスラは、世界で 50 万台の車しか作っていません。40 分の 1 しか作っていない自動車会社が、株式ではトヨタ自動車を上回る価値を持っています。なぜこのようなことが起きているかと言えば、投資家がこれからの時代は EV に変わっていく、ソフトのアプリケーションに変わっていくと評価しているからなのでしょう。投資家は絶えず先を読んでいますから、若い皆さんも将来を見てほしいと思います。トヨタ自動車が今後も日本で一番の企業でいられるかどうか、誰にも分からない時代が来ています。皆さんのライフスタイルも変わってきていると思います。いま、学校でオンライン化が進んでいると思います。VR を駆使した授業だったり、オンラインのスポーツ観戦であったり、ロボットを使った遠隔地医療だったりと、その場にいなくてもできることが増えてきている。例えば、距離が離れていてもロボットを駆使して手術ができる。そうするといろんなところに病院を構えなくても、基幹病院とサテライトとロボットがあれば良い。オンライン診療もいよいよ本格的に始まります。昨年の 10 月に日本でラグビーワールドカップが開催されました。私も日本とロシアの開幕戦に招待されて行ったのですが、それが日本で初めての 5G の実証実験だったわけです。私の前にサムソンの総帥が同じように招待されていましたので、「日本でもいよいよ 5G が始まりますよ」と話したところ、「いやいや、韓国では 5G は商業サービスが始まったんです」というのです。今回のコロナについても韓国は非常に早い段階で感染を抑えるこ

とに成功しました。スマホのアプリで、感染者がどのような経路を通って、いつどこで誰と会ったかを克明に知ることができたからです。日本も感染アプリをやっと導入しましたが、入れている人が少なくほとんど機能していません。これから人々の行動がデジタルによって大きく変わってくるでしょう。それからブロードバンドがどんどん変わっていく。この度、安倍首相に代わって菅氏が総理大臣になりましたが、菅首相はデジタル庁を立ち上げ、1,000 億円の予算を付けて日本中に光ファイバーを設置すると言っています。そうするとどこにいても 5G が自由につながる時代が来ます。東京にいても、岐阜にいても、ニューヨークにいても同じように情報にアクセスできますから、距離のハンデは無くなると言って良いと思います。岐阜にいながら世界に羽ばたく環境が整ったということです。

もう一つ大きな出来事は、「パンデミック」です。世界では約 3,000 万人が感染し、100 万人の方が亡くなっています。これまでの「SARS」などの感染症に比べても深刻な影響が出ています。現在、世界各国でワクチンの開発に取り組んでいますが、私が役員をしている花王もワクチン開発に取り組んでいます。北里大学と組んで、ウイルスが体内に入るのをブロックする抗体の開発に取り組んでいます。ただし、世界の 70 億人にワクチンを広く遍く提供することは、きわめて難しいと言わざるを得ません。したがって、コロナのない社会を想定するよりも、いかにコロナとうまくつきあっていくかを考えるべきでしょう。航空業界については、2024 年にならないと世界の国際線の需要は戻らないだろうと言われていますから、コロナとどうつきあうかを考えることが大切だろうと思います。これからは人と人のコミュニケーションの形態もオンラインを中心とした非接触型が中心になってくるでしょう。産業の形態も同様で非接触が主流になるでしょう。ロボット化や自動化の動きが加速するでしょう。皆さんも学校で勉強をしながら、将来自分が社会に出たときに何がしたいのか、自分のやりたいことを突き詰めていくと良いと思います。そのためにもぜひ大学に入って勉強してもらいたいと思います。

4　世界を変えた人たち

課題は山積しています。しかし、この変化は大きなチャンスです。大きな変化が起きたときには、私たちや私たちよりも少し下の世代は、既存の価値観のまま、過去の延長線上で処理しようします。しかし若い世代は、そうしたしがらみを一切持たないでチャレンジすることができるわけです。「これからの時代を作るのは自分たちだ」という気概を持って臨んでほしいと思います。

ではそうした時代にどうしたら良いか？それは「自分の力で切り拓いていくしかない」のです。平成元年、世界の企業 TOP10 に日本の企業が 7 社も入っていました。しかし、平成 30 年には日本の企業は「0」です。ほとんどが GAFA を中心とした IT 関連の企業ばかりです。30 年でこんなにも世の中は変わってしまうのです。仮にどこかの企業に就職したとしても、30 年後にその企業が今と同じ地位を保っていられるかは分かりません。

また、大学ランキングでは、東京大学は世界で 32 位の大学になってしまいました。東大・京大に入っても、それはゴールではありません。そこから自分の人生をどうしていくのか、自分自身の言葉で語ることが大切です。従来であれば、良い大学に入ればそれで安泰だったわけですが、今は違います。生涯学び続けなければなりません。もう、過去の成功パターンは通用しないのです。大企業に入ることはゴールではありません。個人の力量を高めていかなければなりません。

皆さんはソフトバンクグループの孫正義さんをご存知でしょうか。孫さんは、大きなことをしたいと考えて福岡の高校を中退して単身渡米しました。彼はお金がない中で、アメ

リカの大学を受験するための資格検査を受けようとします。もちろん、資格試験を受けるにも英語ができなければならないので、大変です。孫さんは、その時英語の先生に頼んで、「僕は英語ができないけれど、資格試験に通るだけの自信はあるんだ。だから英語のハンデを埋めるために辞書を使わせてくれ。」と交渉したそうです。さらに時間も1時間半では足りないと言って5時間、6時間をかけて受けたそうです。そして、資格試験に通り、カリフォルニア大学バークレー校に入っていきます。バークレー校に入った孫さんは、時間がもったいないのでアルバイトはせず、とにかく猛勉強しました。そして彼は一日5分間だけ自由になる時間を作って、発明を行いました。いろいろな新しいことを作り出そうとして、5分間一生懸命に考えたそうです。それを積み重ねて、卒業するまでに翻訳機を発明します。その翻訳機を、自分で作るだけではなく、優秀な大学の先生たちに頼み込んで作り上げていく。そして彼はSHARPに翻訳機の開発権を売って、3億円を手に入れます。その3億円を原資にして、ソフトバンクという企業を立ち上げます。24歳でソフトバンクを起業し、いまや10兆円企業にまで育て上げています。孫さんの話はたいへん面白く、彼自身、自分のことを「ホラ吹き『孫』」と言うぐらいです。しかし、彼はホラを吹いていたのではなく、夢を語っていたのです。そして、努力してその夢を叶えていきました。日本のビジネスマンの中で、会社の肩書きではなく、固有名詞で世界のビジネスマンと仕事ができるのは、孫さんぐらいでしょう。

次に、アリババの創始者であるジャック・マーさんです。彼がうちの銀行へ来てくれて、私もいろいろ話を聞きました。ジャック・マーは、「この世界で満足できないこと、まだ変えられていないことがある。自らを変えることが未来を変えることだ。」と言っています。彼は2度大学受験に失敗しています。起業にも失敗しました。自らを「落ちこぼれ」と自認しています。でも諦めずに挑戦し続けています。そして、チャンスをものにして中国で最大の企業を作り、いまや50兆円を超える規模となっています。トヨタは20兆円ですから、その2倍以上の規模です。創業したのは、わずか20年前です。20年間でそれだけの会社を作り上げられるのだということです。中国はジャック・マーだけではありません。テンセントを作った人物も20代、バイドゥを作った人も20代、ディディも20代で起業しています。皆さんは高校生だけれども、大学に入ったら、あるいは会社に入ったらすぐに起業して、20年後にはジャック・マーになっているかもしれない。これは冗談ではありません。実際にそういう人が日本にもいます。みずほ銀行ではそうしたスタートアップ企業を2,000社ほど応援しています。いまや、若い人が大学時代から会社を作って新たな事業を興す時代です。大企業に入っても、自分がやりたいことをできるようになるのは50代、60代になってからです。それではもう遅いのです。ずっと会社にいるのが良いことではなくて、いかに自分の夢を実現するかということが大切なのです。

次に、アップルのスティーブ・ジョブズです。ジョブズが2005年にスタンフォード大学で記念スピーチをしました。彼は幼少期に養子に出されています。養子先はたいへん貧しい家庭でしたが、彼はそこで一生懸命に育ててもらいます。彼はその経緯を得々と語るわけですが、それはたいへん感動的なものです。これはユーチューブに上がっていますから、皆さんも聞くことができます。ジョブズはその講演の中で「今日が自分にとって人生の最後の日だったら、いま自分がやろうとしていることは、本当に自分のやりたいことなのか。」と言います。一日一日を大事に生きろということです。彼は性格的には必ずしも人から尊敬されるような人ではないかもしれませんが、

それでも努力して新しいビジネスモデルを作り上げました。彼の有名な言葉「Stay Hungry, Stay Foolish」は、とにかくハングリーでいろ、フーリッシュでも良いんだ、とことん究めろ、常識にとらわれるな、ということです。こういう人が世界を感動させます。新たな価値を創造する人は、万人受けしない独特なものを持っています。社会的な協調性も大事ですが、「Something new, Something different」が大切です。

日本の財団が世界の若者を対象に意識調査をしました。「自分は社会の責任ある一員だと思いますか」「夢は持っていますか」「自分の力で国を変えられると思いますか」「社会問題について話したことがありますか」。こうした質問に対して、日本・アメリカ・中国・インドの若者が答えていますが、残念ながら日本はたいへん低い数値が出ています。これは皆さんだけのせいではありません。こうした社会を作り上げている我々大人のせいでもあります。皆さんは 18 歳で、選挙権のある人もいます。でも日本では 3 割にも満たない人しか、自分を大人だとは思っていません。自分を責任ある社会の一員だと思っていないのです。受け身で人生を生きるよりも、自分の力で何とか社会を変えていこうと思う方が、価値があると思います。実際に日本にもいろいろな組織ができています。例えば日本若者協議会は、大学生などから意見を吸い上げて、各政党へ政策提言を行っている団体です。皆さんは、自分と政治は関係ないと思っているかもしれませんが、声を上げようと思えばその声を吸い上げてくれる組織があるのです。私は 2015 年に中国の精華大学で英語のスピーチをしました。話し終わるやいなや、質問の手が上がるわ、反論が出るわで、たいへんでした。精華大学というのは、今の国家主席である習近平さんや、その前の胡錦濤さんが出た、世界の TOP20 に入る素晴らしい大学です。皆さんはユーチューブでハーバード大学の講義を見ることができますが、その講義を聴いているのはかなりの割合で中国などのアジア系の学生です。彼らは手を挙げて英語で堂々と質問してくる。皆さんは将来そんな学生たちと競争しなければなりませんし、協働しなければなりません。

スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんは、気候変動を大人たちだけで解決しようとしても駄目だと考え、自ら声を上げている。自分が暮らしている地球の問題なのですから、他人任せにはできません。皆が皆、グレタさんになる必要はありませんが、世界にはこういう若者がたくさんいます。行動を起こすことが大切なのです。

5　世界に羽ばたく日本人

日本人でも世界で活躍している若者がいます。大坂ナオミさんです。彼女がどんなマスクを付けて試合に出ていたかは知っていますか。「Black Lives Matter」です。白人警察官による黒人への暴力行為に抗議するものです。彼女はこのマスクを付けて全米オープンに優勝しています。これまでに全米 2 回、全豪 1 回優勝しているのです。人種差別というのは、非常にデリケートでセンシティブな問題ですが、自分の主張を行動と言葉で堂々と語っていく、そして実際全米オープンで優勝する、こうした行為に対して人々は大いに賞賛するわけです。

次に、錦織圭、大谷翔平です。錦織圭は 178cm しかないのです。その身長でジョコビッチのような大男と互角に 10 年以上闘っているのです。大谷翔平は、大リーグは分業体制が徹底しており、皆がやめろやめろと言うのに、彼は自らの信念に従って二刀流を実現しました。彼は組織に頼っていません。個人でやっているのです。松山英樹や渋野日向子などもそうで、ゴルフは個人のスポーツです。組織に頼らず、自分を信じてやり抜くのです。

次に、昨年ワールドカップで活躍したラグビーの日本代表です。こんなに活躍するとは

皆思っていませんでした。当時のメンタルコーチの言葉は、「羊になるな、ライオンになれ。受け身になるな、戦い抜け」です。田村選手が試合後のインタビューに答えてそう言っています。ジェイミーHC が、「誰も試合に勝つとは思っていない。誰も接戦になるとは思っていない。でも、誰も自分たちがどんなに犠牲を払ってここまで来たかを知らない。信じているのは自分たちだけだ。良いじゃないか、自分たちがわかっていれば。」と言ったそうです。これこそ百折不撓ではありませんか。どんなに苦しくても諦めないでやり通していく。これはスポーツの世界だけではありません。

モビリティ・サービスという会社があります。世界で車を持っていない人は 17 億人、銀行口座を持っていない人も 17 億人います。この会社の社長である中村さんは、日本ではなくフィリピンで事業を興します。そして、フィリピンのタクシードライバーに EV を貸与して、勤務状況を IOT でモニターしながら、勤務状況の良いドライバーには車を買い取れるようにしました。こうしたビジネスモデルをフィリピンで作りました。それは貧困対策であり環境対策になっています。

大沢さんという方がいます。日本の森ビルに就職しましたが、辞めてミャンマーの不動産開発会社に入って、新しい都市作りに携わっています。日本人女性はただ一人です。一人でミャンマーまで行って都市開発に従事しています。

栗山さやかさんは、25 歳の時に友人を乳がんで失います。その後、彼女はアフリカで女性一人で学校を作ります。「アシャンティ・ママ」を作って、貧困に苦しむ地域で子供たちの教育に力を入れます。言葉もままならない中で学校を設立する苦労は、並大抵のことではなかったはずです。

志（こころざし）さえあれば、強い意志さえあれば、道は開けます。150 年前の明治維新、明治維新を実現させたのは、みな地方出身の 20 代の若者でした。日本を変えたい、この国をよくしたいという大志を抱いて、家柄も地位も無く、まさに志だけで明治維新を成し遂げました。

6　おわりに（贈る言葉）

最後に贈る言葉は、改めて「Something different, Something new」です。寄らば大樹、岐阜高校に入って素晴らしい。良い大学に受かって、良い会社に入って素晴らしい。でも、あなたはそこで何がしたいのか？　会社に入ったらたくさん知識を身につけて、人脈を作ってください。起業しても良いと思います。それから岐阜高校の校訓「百折不撓」。とにかく人生に失敗はつきものです。失敗から学んでください。

本日はいろいろとお話をしましたが、皆さんが今日のお話をきっかけに、自分はどう生きていこうか、自分の人生をどうしようかと考えてくれれば幸いです。これからの時代は自らが切り拓いていくしかありません。以上で、私の話を終わりたいと思います。ありがとうございました。

□質疑応答

Q1：僕は勉強が好きではありませんが、林様は会社に入ってからも勉強されたのですか？

A1：何を勉強と捉えるかだと思います。私は語学も勉強しましたし、デジタルデバイスも勉強しました。勉強を学校の中だけのものと捉えない方が良いと思います。

Q2：いまやりたいことがいろいろあります。学校へ行かずにそのことに専念したいとも思うのですが、学校は続けた方が良いのでしょうか。

A2：難しい質問ですね。これは自分で考えるしかありません。私は大学がゴールではないと言いましたが、大学へ行くと素晴らしい人との出会いがあるという良いこともあります。今の段階でやりたいことがはっきりしているのは素晴らしい

ことだと思いますので、どうかそれをとことん突き詰めて、その上で、自分で決断してほしいと思います。

Q3：起業への不安があります。失敗するんじゃないかと。

A3：大学生で起業する人も多いのですが、失敗する人も多いです。なぜかというと、人的ネットワークが弱いからです。そういう意味では、大学へ行ってネットワークを作るというのも良いと思います。でも、起業したいという熱い思いはぜひ持ち続けてください。

□生徒の感想より

・今日のお話を聞いて、特に心に残ったことが 2 つありました。1 つ目は自分で決断をすれば失敗することがあっても、また頑張れるということです。他の人に言われてやったことや、自分で嫌々決めたことは、失敗したときに他人のせいにしたり、諦めてしまったりします。だから、まずは自分がどうなりたいのかを考えて、思ったことは自分の言葉で伝えて、周りの人の意見を取り入れて、最後は自分で決断したいと思います。2 つ目は選んでもらえる人になることです。"Something different. Something new. "のように、他の人にはない自分の強みを持っている人が、価値ある人として選んでもらえることが分かりました。自分の弱点を克服し、自分の得意なことを伸ばしていきたいと思います。

・今の社会も昔と比較すれば大きく変わったように思うけれど、これからの社会はより大きく変化するということで、新しい生活にうまく対応していきたいと思いました。すごい速さで移り変わる社会において、私たち若者はもっともっと積極的に行動を起こすことが重要で、一度の失敗であきらめずに何度も挑戦していきたいと思います。

・これからの時代は創造力が大切だと分かりました。けれど岐阜高校の中にいると、他の人と違う強みを見つけることがなかなかできません。それで最近焦っていたけれど、人生 100 年と考えるとまだまだ何でも始められる、何を始めるのにも遅くないのだと思えるようになりました。AI に仕事を奪われていく時代、私だけの強みを生かせるように、今から創造力を豊かに持ち、意志を強く持ちたいと思います。